

国道15号・品川駅西口駅前広場の整備方針

国土交通省
東京都

品川駅周辺の基盤整備・まちづくりについては、東京都、国、学識経験者、関係区及び民間事業者で構成される「品川駅周辺基盤整備・まちづくり検討委員会」での検討を踏まえ、平成26年9月、東京都が公民協働のまちづくりの指針となる「品川駅・田町駅周辺まちづくりガイドライン2014」を策定し、「これからの日本の成長を牽引する国際交流拠点・品川」の実現に向け、まちづくりの計画段階から官民連携で検討を行っています。

このたび、国土交通省及び東京都は、関係者による議論を重ね、「国際交流拠点・品川」の実現に向けた基盤整備を前進させるため、国道15号・品川駅西口駅前広場について、以下のとおり、整備方針を取りまとめました。

1. 品川駅周辺地域は、羽田空港の国際化やリニア中央新幹線の整備等を踏まえ、首都圏と世界、国内の各都市とをつなぐ広域交通拠点・国際交流拠点として高いポテンシャルを有しており、日本の成長を牽引する新たな国際交流拠点の形成に向けて、官民協働でまちづくりを行っていくことが重要である。
2. 品川駅周辺のまちづくりと広域交通拠点・国際交流拠点の機能強化を進めるためには、駅周辺の限られた空間を有効活用し、道・駅・まちが一体となった都市基盤の整備を進めていくことが必要である。
3. 駅とまちとを結ぶ国道15号については、立体道路制度の活用により、道路上空の空間等を有効活用するなど、合理的な土地利用を促進し、交通広場の整備と合わせて、官民が連携し、都市基盤整備に取り組んでいく。
あわせて、車と歩行者との空間を分離し、バス・タクシー等の乗降場の集約化を図ることにより、安全な歩行者動線を確保し、駅とまちとの回遊性を向上させるなど、モーダルコネクトの機能の強化を図る。
4. 品川駅周辺地域は、MICE・宿泊施設等、国内外から多くの人々が訪れる国際交流拠点となることから、周辺開発と連携を図りながら、品川の玄関口として建築物と一体となったシンボル性、にぎわい性のある広場空間を創出するとともに、利用者の利便性向上、観光に資する複合施設を備えた、日本の顔となる「世界の人々が集い交わる未来型の駅前空間」を目指す。
5. この方針に基づき、民間事業者等の知見を広く取り入れながら、官民連携で計画の具体化を図る。

国道15号・品川駅西口駅前広場の整備方針

ポテンシャル

- 羽田空港との高いアクセス性
- リニア中央新幹線の整備
- MICE・宿泊施設等の機能集積
- 再開発による新たなまちづくりの進展



提供: JR東海



出典: 国土地理院ホームページ 電子国土web地理院地図(2007年~)

課題

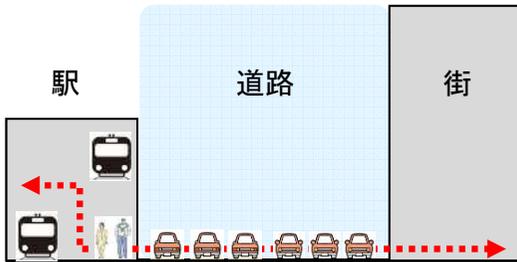
- 駅・街の低い連絡性
- 鉄道・バス等の乗り場の分散
- 駅前広場や歩行者の空間不足
- 国道15号の交通の輻輳



広域交通機能・国際交流機能の強化

道路上空を活用し、日本の顔となる『世界の人々が集い交わる 未来型の駅前空間』を創造

これまでの分断された空間



道・駅・街が一体の空間へ



立体道路制度を活用

■ 道路上空を活用した整備方針のイメージ図



※上記は、道路上空を活用したイメージ図であり、具体的な整備の方向性については、今後、関係者との検討を踏まえ、決定していきます。

- ① 直結通路、アトリウム広場
⇒ 歩行者と車の空間を分離
⇒ 駅と街の回遊性を向上
- ② 交通ターミナル
⇒ バス、タクシー乗り場を集約
⇒ 国内外旅行者に観光情報の発信
- ③ 民間商業施設
⇒ にぎわい空間を創出

民間からの提案を踏まえた
官民連携事業で実現